

令和 5 年度 学校関係者評価報告書

大阪市長 十三中学校協議会

1 総括についての評価

自己評価結果について、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか？」の回答に「だいたいあてはまる」を 100% 目標にしているが、理由によって、いじめはしかたがないととらえている生徒が 3.1% いるということになる。いろいろな見解があるので 100% 肯定的な回答は難しい。100% を目標にすることはしないのではないかな。こころアップタイムを導入し、多様な考え方を尊重する姿勢を養い、100% に近づけるようにしていくということが現実的である。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

こころアップタイムを導入し、多様な考え方を尊重する姿勢を養っているが、100% 達成まではまだまだである。

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学力は国語・数学・英語は昨年比べて伸びている。

不登校の子どもの学びの保障について、子どもによって異なるが、フリースクールに通っている生徒も増えてきている。家庭訪問してプリントを配布したりしている。

年度目標：【学びを支える教育環境の充実】

デジタル活用については、目標 100% 達成している。月 1 回以上活用するという目標は、立てた頃(令和4年度当初)と今とでは、急激に状況が変わってきているので、目標を変える必要があるのではないかな。

・働き方改革では、部活動の外部委託を増やした結果、職員の残業が減少している。

3 今後の学校園の運営についての意見

不登校対策モデル校として人的配置するための予算がつけられた。

不登校の子どもにとって、中間的な場所をつくっていく。教室を利用してサポーター(生活支援員など)や副担任中心に不登校対策をおこなっていく。不登校の子どもを置き去りにしない。現在約 1 割が不登校という状況。そういった子どもをどこかにつなげていきたい。保護者に対しても医療や就労の支援をしていきたい。困難な子のケアに対して、ボランティアが不足している。学校外の方と触れ合うのも大切なので、ボランティアをしてくださる方を募集したい。